

事業報告書

一般社団法人 豊川青年会議所

2021年度 専務理事

総務グループ担当

氏名 山田真之介



<本年度を振り返って>

本年度は「時代に即した組織改革」をテーマに、意識改革と仕組み改革を進めて参りました。専務としての使命と、グループを両立することに大変苦戦した1年でした。やはり「組織運営」に徹するべきだったと感じました。

また、豊川青年会議所の魅力でもありますが「役職の分け隔てなく仲が良い。」という事は反面、組織運営を阻害してしまう要素でもある事を感じました。正副のメンバー間で、「組織」として、どのような役割を担っているのか、しっかりと共有するべきです。

<総務局>

「原点回帰による意識改革」

総会や、タートンJCとの交流など、なぜ例年行われているのか。青年会議所に入会して8年になりますが、分からないまま後世へ繋いでいくことに疑念がありました。本年は原点回帰を通して、事業の本質を理解することで、メンバーの意識改革につながると考え事業に取り組みました。

また、「手帳の作成」「慶弔規定の整理」など、今後、豊川青年会議所がより活動を行いやすくなる環境整備にも取り組みました。

<事務局>

「取捨選択による仕組み改革」

単年度性である青年会議所は、過去から続く仕組みを踏襲してしまう傾向があります。青年会議所の在り方を守る仕組み、改善すべき仕組みなど見極め時代に即した改革に取り組みました。メンバーの人となりを知るオネスティーの復活、徹底した財政管理、資料の取捨選択をし電子資料化など、数々の組織改革に取り組みました。

<むすびに>

私が専務理事を拝命した際に「専務をやってみたいと思ってもらう」という目標に対しては、恐らく届かなかったかと思います。イキイキとJC活動に取り組む姿勢や、しっかりと専務らしい振る舞いをもっとできていたら、きっと専務理事の魅力的な面を伝えることが出来たと思います。豊川青年会議所のあり方を真剣に考える中で、会社の在り方に通ずる点も多く、とても学びの多い一年でした。

また、専務間の交流をする中で、うまくいっている組織、破綻しかけている組織などの仕組みを知って、専務理事が青年会議所という団体にとって重要な責任を背負っていることも実感しました。……と、堅苦しい事はここまでだ。

専務理事、JCライフで一番しんどい1年だった。忙しいとかそういう面ではない。良くも悪くも、この団体は色んな主観に溢れている。これを束ねるのに重要な要素は、正当性や、理論など全く通用しない。交流と根回しである。理事長のビジョンを達成するために、専務理事はどれだけ根回しに動けたか、支援者を募れるか、政治だ。プレイヤー気質の自分には、なかなかうまく立ち回ることはできなかったけど、やりがいのある職であることは間違えない。

最後になりますが、大石理事長のすごさを間近で見ることが出来たこと、個性的すぎて頭を抱える副理事長達の運動に携わることが出来た事、専務理事をしっかりと支えてくれる常務理事と組織改革を行えたこと、大変だけど必死に食らいついて全てを形にしてくれた理事と活動できたこと。この1年は宝物だな……と、文章を書きながら感じる事が出来ました。

1年間ありがとうございました。